



「暮らし」にまつわる小さな商店に立つ高野知子さん。お店には作り手の方達がこだわって作り上げた調味料や旬のお野菜、生活が楽しくな



地域おこし協力隊が
出会った素敵な人紹介

日々の「暮らし」に目をとめる
—お店「toita(トイタ)」

高野知子さん
(洞第2)

る食材などが並べられていきます。とうや水の駅のほぼ正面にあるお店「toita」は、去年の9月からオープンして以来、いつの間にか地域で暮らす人や観光で訪れる人々が集う場所になっていきました。店内では高野さんが、一点ずつ丁寧に商品の説明をしてくれます。生産者と消費者の架け橋となり、作り手の方達の声を繋ぐ役目も果たしています。商品の取引の前にはできるだけ生産者の元を訪れて、作り手の方の思いやこだわりを引き継ぐことに力を注ぎます。「お店の名前を決めるのはとても悩んだ」と高野さん。「toita」はアイヌ語で「土を耕す」という意味だそうです。そうで、「人と人との関係を耕す、先人達が繋いできた土地・文化を繋ぐ、人を通して、食を通して豊かになるお手伝いができたら」とこの名前に

「洞爺に移り住んで3年目。洞爺の景色や人の魅力、様々な縁が重なり今に至ります。これからも人や食を通して『暮らし』の提案をしていきたい」と目を輝かせます。現在は洞爺の農家さんや加工業者さんとコラボして新しい商品の開発にも取り組んだり、イベント・ワークショップなどの企画もしている最中です。是非お気軽にお店を覗いてみてください。高野さんの優しい笑顔が印象的な素敵なお店です。

(宮本 好)



今月のワンショット



八幡神社例大祭で曙獅子舞を奉納する

東奔西走

NHKの朝のドラマ「とと姉ちゃん」が好評の中で終了しました。この主人公の小橋常子のモデルになった人物が、暮らしの手帖社を設立した大橋鎮子さん。なんとその大橋さんが、大正14年に虻田に住んでいたそうです。父親が当時の亜麻工場に勤務し、東京から転勤してきたようです。秋の夜長という言葉が当てはまる季節となりました。いろいろな秋の過ごし方がありますが、私は大橋さんと亜麻工場を調べてみようかと思っています。(H.O)

人口と世帯の動き 8月31日現在 (先月比)

男	4,288人	(+ 3)
女	4,953人	(△ 5)
計	9,241人	(△ 2)
世帯	5,007世帯	(+ 3)